

これからの質保証システム

平成22年度大学評価フォーラム

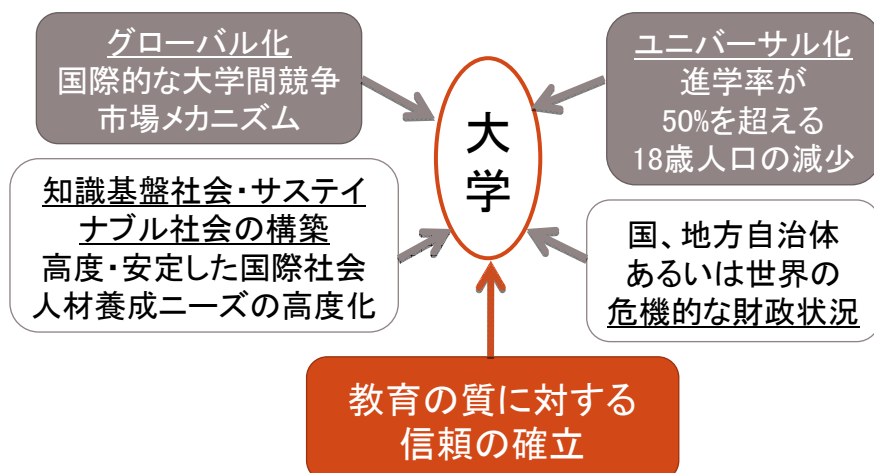
大学評価・学位授与機構

川 口 昭 彦

これからの質保証システム

- 社会的評価に応えられる「内部質保証システム」の確立
- 保証すべきは、「学位の質」あるいは「職業資格の質」
- 学習成果 (Learning Outcomes) を社会に可視的に提示

大学を取りまく環境



3

認証評価の検証結果の概要

- 「改善に資する」という目的については、かなり成果があがっている。
- 「質の保証」という目的については、ある程度成果があがっていると思われるが、「質」に関する理解（コンセンサス）に課題もある。
- 「社会的説明責任を果たす」という目的の達成状況は、かなり課題を残している。

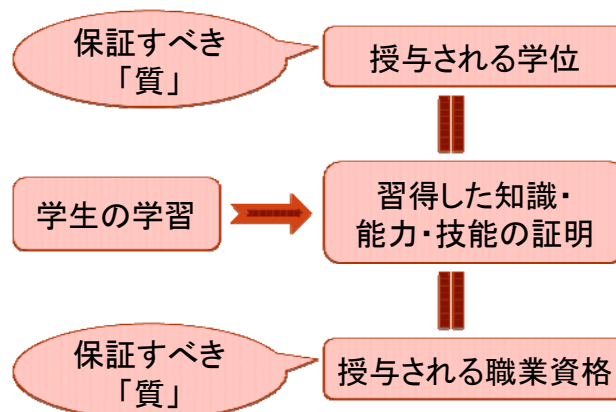
4

「評価疲れ」の原因は？

- 教育研究上の目的・目標（理念や建学の精神など）が、総じて抽象的
- 組織としての教育研究の実施、計画立案など評価、改善・改革までの組織的一貫性の不足
- 情報公開と説明責任の不足
- 外部環境、内部環境の分析不足

5

保証すべきは 学位の質あるいは職業資格の質

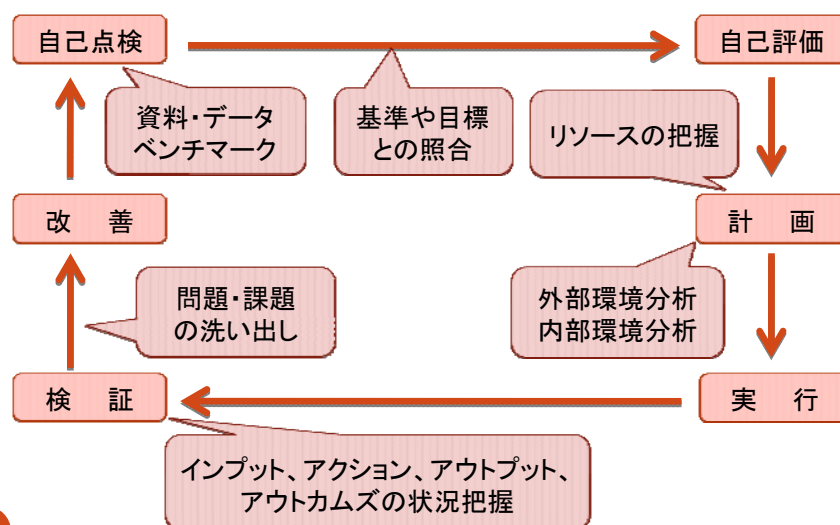


6

内部質保証システム

- 自主・自律を標榜する大学は、自らの責任で諸活動について点検・評価を実施し、その結果に基づいて改革・改善を図る必要がある。
- 大学の質を自ら保証することができる内部質保証システムを構築することが不可欠である。
- 認証評価の役割は、そのシステムが機能しているかどうかを第三者機関として検証する。
- 内部質保証システムが十分機能していることが、自律的組織体としての証明である。

内部質保証システムの概要



8

成果(アウトカムズ)とは？

	具 体 的 内 容
インプット (投入)	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション (活動)	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット (結果)	インプットおよびアクションによって、大学（組織内）で産み出される結果をさす。
アウトカムズ (成果)	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

9

学士課程教育のパラダイム・シフト

- 「教育パラダイム」から「学習パラダイム」へ
- 「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」へ
- 「何を教えるか」より「何ができるようになるか」
- 「授業内容や教育方法の改善」から「学習の質が向上したか、学習成果があがっているか」へ
- 学習成果をいかに測定するか？ いかに説明責任を果たすか？

10

学習成果とは？

- ある学習過程を終了した時に、どのような知識、技能そして能力を獲得することが期待できるかに関するステートメント（ECTS Users' Guide）
- 教育を語るための国際共通言語（あるいは国際共通通貨）

11

「最終アウトカムズ」と 「中間アウトカムズ」

- 最終アウトカムズ（End Outcomes）と中間アウトカムズ（Intermediate Outcomes）を区別する必要がある。
- 中間アウトカムズは、最終目標の達成に向けて期待されるアウトカムズではあるが、それ自体が最終目標ではない。
- ステークホルダー（関係者）に向けて、大学人は、中間アウトカムズを可視化して示すことが求められている。

12

大学のジレンマとブレイクスルー

- 大学教育パフォーマンスを表わす指標の一つとしての所定年限内の卒業率（あるいは在籍率）
- これと卒業者の質（教育達成レベル）を両立させることは簡単ではない。
- 卒業率と教育達成レベルを同時に高く保つか、これが大学教育のアウトカムズであり、大学の知恵の絞り所である。